

授業科目	生命科学	分野	基礎分野
時 期	1 学年 通年	単位数	2 単位 (30 時間)
担 当 者	玉橋博幸	実 務	
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 生物学 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 化学 (医歯薬出版)		
参 考 書			
一般目標	様々な物質の性質や構造、反応性及び応用について学び、将来、歯科医療で扱う物質について十分な理解の基に活用できる力をつける。また生物の特徴や成り立ち、生体の仕組み、働きについて学び、医療従事者として必要な生物知識を身につける。		
到達目標	1. 物質が小さな粒の集合であり、物質のさまざまな性質と関連させて説明できる。 2. 物質の性質や反応性がその物質の利用・応用にどう関連しているか説明できる。 3. 物質の量の表し方や溶液の濃度について正確に計算することができる。 4. 生物の特徴や進化、生体の構造や器官の名称、働きについて簡潔に説明できる。 5. 様々な物質が循環することで生命や環境が維持されていることを説明できる。		
学習方略	講義・グループワーク・スライド・動画		
成績評価方法	定期試験とレポート、出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	物質とは	原子と元素, 混合物と純物質, 化合物と単体, 同素体	玉橋
2	物質の構造	原子の構造, 原子の電子配置, 化学結合, 分子	玉橋
3	物質の量	原子量, 分子量, 式量, 物質の量の表し方, モル	玉橋
4	気体の性質	気体に関する法則, 空気と主な気体の性質と利用	玉橋
5	水溶液と濃度	溶解のしくみ, 濃度の表し方, 濃度の計算	玉橋
6	水溶液の性質	蒸気圧降下, 沸点上昇, 凝固点降下, 浸透圧, コロイド	玉橋
7	酸とアルカリ	酸とアルカリの性質, 水素イオン濃度と pH, 中和反応	玉橋
8	酸化と還元	燃焼の仕組み, 酸化とは還元とは, 主な酸化剤と還元剤	玉橋
9	金属の性質	主な金属の種類と性質, 金属のイオン化傾向	玉橋
10	化学反応とは	化学反応式の表し方と量的関係, 化学反応の速さ, 化学平衡	玉橋
11	有機化学 1	有機化合物の特徴, 分子と構造式	玉橋
12	有機化学 2	主な有機化合物の性質と利用	玉橋
13	生命とは	生物の特徴, 原始地球と化学進化, 生命の変遷	玉橋
14	生命をつくる物質	生体を構成する元素, 水の働き, 三大栄養素とその役割	玉橋
15	細胞の構造	細胞の構造と小器官のはたらき	玉橋
16	細胞の活動	酵素の働きと様々な生体反応 (同化と異化, 光合成と呼吸)	玉橋
17	組織と器官	ヒトの組織と器官系, 器官の種類とはたらき	玉橋
18	感覚器と神経系	ヒトの感覚器とはたらき, 神経系と刺激伝達の仕組み	玉橋
19	生命の連続	生殖と減数分裂, 発生の過程と仕組み, 遺伝	玉橋
20	物質の循環	講義のまとめ 生体と環境の物質循環	玉橋

授業科目	外国語	分野	基礎分野
時期	1学年 前期	単位数	2単位 (30時間)
担当者	エスタ・ウェア	実務	
教科書	Four Corners Level 1 (Cambridge)		
参考書	スーパーアンカー和英辞典 学研		
一般目標	For students to reach a basic level of daily conversation and introduce language to be used in a dental office setting. (基本的な日常会話ができるレベルに達する)		
到達目標	To build students confidence in speaking English. (自信をもって英語を話すことができる) To increase vocabulary and be able to hold conversations. (日常的な会話と語彙力を身につけることができる) To express themselves. (自分自身を表現できる)		
学習方略			
成績評価方法	Continual assessment and a final presentation test. (継続評価とプレゼンテーションテストによる評価)		
回	授業項目	学習内容	担当者
1		Introduction	エスタ・ウェア
2		Unit 1- New Friends	エスタ・ウェア
3		Unit 4 - Daily Life	エスタ・ウェア
4		Unit 5 - Free time	エスタ・ウェア
5		Unit 6 - Work and Play	エスタ・ウェア
6		Review	エスタ・ウェア
7		Unit 7 - Food	エスタ・ウェア
8		Unit 8 - In the neighborhood	エスタ・ウェア
9		Unit 9 - What are you doing?	エスタ・ウェア
10		Unit 10 - Past Experiences	エスタ・ウェア
11		Unit 11 - Getting away	エスタ・ウェア
12		Review	エスタ・ウェア
13		Dental I	エスタ・ウェア
14		Dental II	エスタ・ウェア
15		Dental III	エスタ・ウェア

授業科目	解剖学	分野	専門基礎分野
時期	1 学年 前期	単位数	2 単位 (30 時間)
担当者	逸見朋陽・粕谷賢志	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬出版) 歯科衛生士 書き込み式学習ノート①専門基礎科目編 第3版		
参考書	体の地図帳 (講談社)、人体解剖学ノート (金芳堂)		
一般目標	人体の基本構造を系統的に学び、各部の構造的特徴と機能について理解する。		
到達目標	人体構造を学ぶほぼ唯一の機会となるため、この機会に少しでも多くの知識を習得する。 (ex. 各部の構造について略図を用いて説明できる。)		
学習方略	教科書を元に授業を進める。授業中に小テストを行うことがあるので予習をして授業にのぞむこと。		
成績評価方法	試験により評価する。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	1 章	骨格 1	粕谷
2	1 章	骨格 2	粕谷
3	2 章	筋 1	逸見
4	2 章	筋 2	逸見
5	3 章	消化器 1	粕谷
6	3 章	消化器 2	粕谷
7	4 章	循環器 1	逸見
8	4 章	循環器 2	逸見
9	6 章	神経	粕谷
10	5 章	感覚器	粕谷
11	7 章	呼吸器 1	逸見
12	7 章	呼吸器 2	逸見
13	8 章	泌尿器	粕谷
14	9・10 章	内分泌・生殖器	粕谷
15		まとめ	粕谷

授業科目	組織・発生学	分野	専門基礎分野
時期	1学年 前期	単位数	1単位 (15時間)
担当者	深瀬公彦	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	人体を構成する諸器官、口腔と口腔に隣接する諸器官の細胞や組織の構造を学び、臨床歯学の基礎知識を身につけ、それらが形態的にどのように構成されているかを理解する。		
到達目標	1. 細胞の構造と基本的機能を理解する 2. 細胞の種類とその構成 (上皮組織・支持組織・筋組織・神経組織・皮膚と粘膜) を理解する 3. 染色体・受精と着床・胚葉の形成・胎児の成長と発育を理解する 4. 顔面と口腔の発生 (鰓弓・顔面と口唇・口蓋と鼻腔・舌と唾液腺の形成) を理解する		
学習方略	図説、スライド写真、小テストなどを用いて教科書に沿っておこなう。		
成績評価方法	定期試験の成績をもって評価する。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	組織学	細胞の構造と機能	深瀬
2	組織学	細胞の一生・細胞の基本的生理機能	深瀬
3	組織学	骨の基本構造 上皮組織・支持組織	深瀬
4	組織学	筋の構造・筋の機能・神経系の基本構造	深瀬
5	発生学	染色体・精子と卵子の発生 受精と着床	深瀬
6	発生学	胚葉の形成・胎児の成長と発育	深瀬
7	発生学	鰓弓の形成・顔面と口唇の形成	深瀬
8	発生学	口蓋と鼻腔の形成・舌と唾液腺の形成	深瀬

授業科目	生理学	分野	専門基礎分野
時期	1学年 前期	単位数	1単位 (15時間)
担当者	関口真人	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 (医歯薬出版) 歯科衛生士 書き込み式学習ノート①専門基礎科目編 第3版		
参考書	ビジュアル生理学・口腔生理学第3版 (学建書院)		
一般目標	歯科衛生業務の遂行に必要な人体の生理機能についてその意義と機序を理解する。 DVD ビデオを用い視覚で理解できるように講義する 各單元ごとに国家試験過去問題を実施し解説する		
到達目標	1. 口腔生理機能と全身の生理機能との関わりについて理解する。 2. 神経 (末梢神経、中枢神経、体性神経、自律神経) の役割を理解する。 3. 生命の維持に重要な循環、呼吸、内分泌、体温維持の機序を理解する。 4. 筋・運動の機序を理解する。 5. 消化吸収、排泄。生殖の機序を理解する。		
学習方略	講義で得た基本的知識をもとに、VTR視聴にてさらに理解を深める。		
成績評価方法	定期試験により評価する。予習、復習を含めた授業への積極度で評価する		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	生理学	細胞、組織、器官、器官系、内部環境の恒常性、バイタルサイン、生理学とは？口腔生理学とは？	関口
2	生理学	神経 (神経の分類、神経の性質)	関口
3	生理学	循環・血液	関口
4	生理学	筋と運動	関口
5	生理学	内分泌	関口
6	生理学	呼吸	関口
7	生理学	体温・生殖	関口
8	生理学	排泄	関口

授業科目	口腔解剖学（口腔）	分野	専門基礎分野
時期	1 学年 前期	単位数	2 単位（30 時間）
担当者	岩沼 治	実務	○（歯科医師）
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版） 歯科衛生士書き込み式学習ノート①専門基礎科目編第3版（医歯薬出版）		
参考書	口腔顎顔面解剖ノート（学建書院） 歯科国試パーフェクトマスター 口腔解剖学（医歯薬出版）		
一般目標	歯科衛生士に必要な歯・口腔の正常構造や機能について理解する。		
到達目標	1. 口腔付近の正常構造や機能について説明できる。 2. 歯および歯周組織の構造と機能について説明できる。		
学習方略	教科書、シェーデル（頭蓋模型）、スライド、配布資料等を活用し講義を行う		
成績評価方法	定期試験による判定		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	口腔付近の解剖学	口腔とは	岩沼
2	〃	頭蓋骨（15 種 23 個）	岩沼
3	〃	口腔を構成する骨（上顎骨・下顎骨・口蓋骨・舌骨）	岩沼
4	〃	頭頸部の筋と作用（表情筋・咀嚼筋・舌筋・頸部の筋）	岩沼
5	〃	顎関節	岩沼
6	〃	脈管系（動脈系・静脈系・リンパ系）	岩沼
7	〃	神経系（脳神経 12 対・自律神経）	岩沼
8	味覚と嗅覚	味蕾と嗅細胞	岩沼
9	咬合と咀嚼	下顎位・下顎運動	岩沼
10	唾 液	唾液腺（大唾液腺・小唾液腺）	岩沼
11	歯の構造と機能	エナメル質	岩沼
12	〃	象牙質・歯髄	岩沼
13	歯周組織の構造と機能	セメント質・歯根膜	岩沼
14	〃	歯槽骨・歯肉・口腔粘膜	岩沼
15	まとめ	まとめ、予備日	岩沼

授業科目	口腔解剖学（歯）	分 野	専門基礎分野
時 期	1 学年 前期	単位数	2 単位（30 時間）
担 当 者	松田一真	実 務	○（歯科医師）
教 科 書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版） 歯科衛生士書き込み式学習ノート①専門基礎科目編第3版（医歯薬出版）		
参 考 書	なし		
一般目標	歯の形態に関する基本的知識を習得する。		
到達目標	1. 歯種別の形態と特徴を説明できる（歯式を含む）。 2. 永久歯と比較した乳歯の特徴を説明できる。 3. 歯列と咬合を概説できる。		
学習方略	講義および実習		
成績評価方法	定期試験による判定		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	歯の解剖学総論	歯の特徴、構造、機能	松田
2	歯種・歯式	歯種・歯式、歯の用語など	松田
3	歯の形態	永久歯（上顎前歯）	松田
4	歯の形態	永久歯（下顎前歯）	松田
5	歯の形態	永久歯（上顎小臼歯）	松田
6	歯の形態	永久歯（下顎小臼歯）	松田
7	歯の形態	永久歯（上顎大臼歯）	松田
8	歯の形態	永久歯（下顎大臼歯）	松田
9	歯の形態（実習）	歯のスケッチ	教務
10	歯の形態（実習）	歯のスケッチ	教務
11	歯の形態（実習）	歯のスケッチ	教務
12	歯の形態	乳歯の特徴	松田
13	歯の形態	乳歯の形態学的特徴	松田
14	歯の異常、歯列と咬合	歯の異常、歯列と咬合	松田
15	口腔解剖学（歯）	まとめ	松田

授業科目	口腔生理学	分野	専門基礎分野
時期	1 学年 通年（前期）	単位数	1 単位（15 時間）
担当者	奥山尚樹	実務	○歯科医師
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版） 歯科衛生士書き込み式学習ノート①専門基礎科目編第3版（医歯薬出版）		
参考書	ビジュアル生理学・口腔生理学第3版（学建書院）		
一般目標	歯科衛生業務の遂行上必要な口腔生理学の基礎を理解する。 基本的な口腔諸器官の機能と専門用語を説明できる。 各單元ごとに国家試験過去問題を実施し解説する。		
到達目標	1. 神経の役割、特に口腔・顔面領域を支配している神経の機能を理解する 2. 歯・歯周組織の機能、口腔の感覚、唾液の機能、発声の仕組みを理解する。 3. 顎反射（開口反射、閉口反射）の神経経路を理解する。 4. 摂食・嚥下機能の機序を理解できる。		
学習方略	教科書&配布資料を主体に学習する。		
成績評価方法	定期試験にて判定する。予習、復習を含めた授業への積極度で評価する		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	口腔生理学	神経（中枢神経系&末梢神経系）	奥山
2	口腔生理学	神経（口腔顔面領域の神経支配、鰓弓器官）	奥山
3	口腔生理学	感覚一般、体性感覚、口腔感覚	奥山
4	口腔生理学	痛覚、味覚と嗅覚	奥山
5	口腔生理学	咬合と咀嚼・吸啜、顎反射（開口反射、閉口反射）	奥山
6	口腔生理学	消化・吸収、唾液（大唾液腺、小唾液腺）、神経支配	奥山
7	口腔生理学	唾液分泌機序（反射性分泌、反射弓）、	奥山
8	口腔生理学	発声 嚥下と嘔吐	奥山

授業科目	病理学・口腔病理学	分野	専門基礎分野
時期	1学年 前期	単位数	2単位 (30時間)
担当者	早坂暢洋	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学 (医歯薬出版)		
参考書	必要に応じ文献等配布		
一般目標	全身並びに口腔領域の疾病の病態を理解させる。		
到達目標	正常と病態を区別し、診断並びに説明を可能にする。		
学習方略	教科書を主体に学習する。		
成績評価方法	定期試験にて判定		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	I編 1,2章	病理学序論と病因論 遺伝性疾患と奇形	早坂
2	3,4章	循環障害 代謝障害と退行性病変	早坂
3	4章	代謝障害と退行性病変	早坂
4	5章	増殖と修復	早坂
5	6章	炎症と免疫応答異常	早坂
6	7章	腫瘍	早坂
7	II編 1,2章	歯の発育異常 歯の損傷と着色・付着物	早坂
8	3,4章	う蝕 象牙質・歯髄複合体の病態	早坂
9	5章	歯周組織の病態	早坂
10	6章	口腔粘膜の病変	早坂
11	7章	口腔領域の嚢胞と腫瘍	早坂
12	8章	口腔癌	早坂
13	9,10章	顎骨の病変 唾液腺の病変	早坂
14	11,12章	口腔領域の奇形 口腔組織の加齢変化	早坂
15	試験の傾向と対策		早坂

授業科目	口腔衛生学	分野	専門基礎分野
時期	1 学年 前期	単位数	2 単位 (30 時間)
担当者	小関健由	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 (医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	口腔の健康を推進し疾病予防を適確に実施する歯科衛生士になるために、歯・口腔の健康と予防に関わる基本的事項を修得する。		
到達目標	1. 口腔の構造と機能から口腔の健康を説明する。 2. 口腔の疾病の特徴と疫学的特性を説明する。 3. う蝕・歯周疾患等の口腔の主な疾患の原因と予防法を説明する。 4. ライフステージごとの口腔保健管理を説明する。		
学習方略	講義		
成績評価方法	定期試験と出席状況、学習態度により総合評価する。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	総論①	歯・口腔の健康と予防 歯・口腔の健康	小関
2	総論②	歯・口腔の付着物・沈着物	小関
3	口腔清掃①	意義・清掃法・人口清掃法	小関
4	口腔清掃②	不適切な口腔清掃による為害作用 歯磨剤と洗口剤	小関
5	歯科疾患の疫学	歯科疾患の疫学	小関
6	齲蝕の予防①	齲蝕のメカニズム・齲蝕の発症要因	小関
7	齲蝕の予防②	齲蝕活動性・齲蝕の予防	小関
8	フッ化物による齲蝕予防①	フッ化物の齲蝕予防メカニズム	小関
9	フッ化物による齲蝕予防②	我が国のフッ化物応用・フッ素の代謝 フッ化物の毒性	小関
10	フッ化物による齲蝕予防③	フッ化物応用による齲蝕予防方法 ライフステージに応じたフッ化物応用	小関
11	歯周疾患の予防①	歯周疾患の症状と分類 歯周疾患の作用機序	小関
12	歯周疾患の予防②	歯周疾患の全身に与える影響 歯周疾患の予防手段と処置	小関
13	その他の疾患異常の予防①	その他の疾患異常の予防	小関
14	その他の疾患異常の予防②	その他の疾患異常の予防	小関
15	ライフステージごとの口腔保健管理	ライフステージごとの口腔保健管理	小関

授業科目	歯科衛生学総論	分野	専門分野
時期	1 学年 前期	単位数	1 単位 (15 時間)
担当者	宮川系子 齋藤純一 ¹⁾ 結城泉 ²⁾ 秋葉まゆ美 ²⁾	実務	¹⁾ ○歯科医師 ²⁾ ○歯科衛生士
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 保健・医療・福祉の制度 (医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	将来、チームの一員として歯科医療職に携わるために必要な、歯科衛生士の職業観、倫理観、心構えについて習得し、自身の歯科衛生士としての将来像を明確にする。また、歯科衛生士の歴史、歯科衛生士法の概略について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科衛生学を概説できる。 2. 歯科衛生士の業務内容・役割について説明できる。 3. 歯科衛生士を取り巻く法律を説明できる。 4. 医療従事者としての職業上の義務、倫理観について説明できる。 5. インフォームドコンセントとその定義について説明できる。 6. 専門職として持つべき資質を述べる。 7. 多職種との連携の意義を説明できる。 8. 歯科衛生過程を概説できる。 9. 医療安全対策を概説できる。 		
学習方略	講義		
成績評価方法	小試験・定期試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	スタートセミナー	ストレスマネジメント	宮川
2	歯科衛生学とは	歯、口の健康と歯科衛生士 歯科衛生学とは	結城
3	歯科衛生の歴史	歯科衛生の誕生と経緯 歯科衛生の背景	結城
4	歯科衛生活動のための理論	予防の概念 歯科衛生の考え方 (科学的思考)	結城
5	歯科衛生士過程	歯科衛生過程とは 歯科衛生過程の流れ	結城
6	歯科衛生士法と歯科衛生業務	歯科衛生士法と歯科衛生士法・関係法規 歯科衛生士の役割	結城
7	歯科衛生士と医療倫理	歯科衛生と倫理 インフォームドコンセント	結城
8	歯科衛生士の活動と組織	歯科衛生活動の現況 歯科衛生活動の場・組織	秋葉 結城
9	海外における歯科衛生士	海外の歯科衛生の歩み 海外における歯科衛生士の現状	結城
10	禁煙 出前講座	タバコの害、口腔に与える影響	齋藤

授業科目	歯科臨床概論	分野	専門分野
時期	1 学年前期	単位数	1 単位 (15 時間)
担当者	笹原将則	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版 (医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	これから臨床科目を学ぶ前段階として、歯科臨床の概要を知ることにより、基本的な知識を身につける		
到達目標	1. 歯科診療の概要について説明できる。 2. 歯科診療従事者の役割を説明できる。 3. 歯科診療所における業務を説明できる。 4. ライフステージに対応した歯科衛生士業務について説明できる。 5. 歯科診療の流れの概要を説明できる。 6. 臨床各科目の概要を説明できる。		
学習方略	講義 (スライド など)		
成績評価方法	小試験 期末試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	I 編 1 章	歯科診療とは	笹原
2	I 編 2 章 I 編 3 章	歯科診療所 歯科診療所における業務	笹原
3	II 編 1 章 II 編 2 章	ライフステージと歯科診療 主な診療の流れ 1. 診査・検査・前処置	笹原
4	II 編 2 章	2. 小児歯科 3. 歯科矯正	笹原
5	II 編 2 章	4. 口腔外科	笹原
6	II 編 2 章	5. 歯科保存	笹原
7	II 編 2 章	6. 歯周治療	笹原
8	II 編 2 章	7. 歯科補綴 8. 障害者歯科・高齢者歯科	笹原

授業科目	歯科予防処置論Ⅰ（歯周病予防処置）	分野	専門分野
時期	1学年 通年(前期)	単位数	3単位（90時間）
担当者	森 茂美 ¹⁾ ・吉田ちづる ²⁾ ・秋葉まゆ美 ²⁾ 大場智美 ²⁾ 結城 泉 ²⁾ ・舟橋良子 ²⁾ 半田 茜 ²⁾ ・平井愛梨 ²⁾	実務	¹⁾ ○（歯科医師） ²⁾ ○（歯科衛生士）
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 第2版(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 保健生態学(医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	生涯を通じた人々の歯・口腔の健康に関する管理方法を身につけるため、専門的な知識、技術、態度を身につける。		
到達目標	1. 歯科予防処置の定義を説明できる 2. 歯牙、歯周組織を説明できる 3. 口腔内の付着物、沈着物について説明できる 4. う蝕と歯周病の原因、予防法を説明できる 5. 歯周診査用器具の種類、特徴、使用法を列挙できる 6. 歯周診査用器具を正しく把持できる 7. マネキン上で正確なプロービング、エクスプローリングの操作ができる 8. ミラー、ピンセットを正しく取り扱うことができる 9. シックルスケーラー・グレーシーキュレットの種類、特徴、使用法を列挙できる 10. シックルスケーラー・グレーシーキュレットを正しく把持できる 11. マネキン上で正確なシックルスケーラー・グレーシーキュレットの操作ができる		
学習方略	講義・演習・実習・実技試験		
成績評価方法	定期試験・実技試験・実技評価・授業態度・提出物		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	口腔の基礎知識	正常な口腔と歯周組織 歯冠と歯根 う蝕とは、歯周病とは	森
2	口腔の基礎知識	歯科予防処置とは 歯科衛生士の仕事とは 歯科医学に関わる用語・歯式について	吉田
3	う蝕と歯周疾患の基礎知識	健康・不健康 病的変化を招く因子 口腔内の細菌とバイオフィルム	吉田
4	歯石除去基礎実習	執筆状変法について エクスプローリングとプロービング技法	吉田
5	歯石除去基礎実習	エクスプローラーと歯周プローブの操作方法 (机上練習)	吉田
6	歯石除去基礎実習	手用スケーラーの構造 把持法と運動 シックルスケーラーの構造・Gキュレットの構造 前腕回転運動（キャンドル）	吉田
7	歯石除去基礎実習	スケーラー・Gキュレットの操作 前腕回転運動・手指屈伸運動・手根関節運動 (キャンドル)	吉田
8	歯石除去基礎実習	Gキュレットの基本操作(0° 挿入、ストローク) エクスプローリング、ミラーの役割 マネキン操作方法 ミラーテクニック・ポジショニング 人工歯石塗布説明	吉田

9	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎実習① エクスプローリング ※舌・歯肉あり、頬粘膜なし #33～#43 (唇側・舌側) スケーリング	吉田
10	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎実習② エクスプローリング ※舌・歯肉あり、頬粘膜なし #13～#23 (唇側・口蓋側)	吉田
11	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎実習③ エクスプローリング ※舌・歯肉あり、頬粘膜なし #44～#47 (頬側)、#34～37 (舌側)	吉田
12	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎実習④ エクスプローリング ※舌、歯肉、頬粘膜あり #34～#37 (頬側)、#44～47 (舌側)	吉田
13	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎実習⑤ エクスプローリング※舌、歯肉、頬粘膜あり #24～#27 (頬側)、#24～#27 (口蓋側・保持固定)	吉田
14	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎実習⑥ エクスプローリング ※舌、歯肉、頬粘膜あり #14～#17 (口蓋側)、#14～#17(頬側)	吉田
15	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎実習 エクスプローリング ※舌、歯肉、頬粘膜あり 全顎振り返り 実技試験の説明	吉田
16	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎実習 エクスプローリング ※舌、歯肉、頬粘膜あり 全顎振り返り	吉田
17 18	歯石除去基礎実習	シックルスケーラー・Gキュレットの基礎 実技試験 (マネキン前歯部・臼歯部※舌・歯肉あり、頬粘膜あり)	吉田
19	歯石除去基礎実習	実技試験の振り返り	吉田
20	歯石除去基礎実習	実技試験の振り返り	吉田

授業科目	歯科保健指導論 I	分野	専門
時期	1 学年 通年 (前期)	単位数	2 単位 (60 時間)
担当者	結城 泉・平井愛梨・舟橋良子 大場智美・半田 茜・吉田ちづる 秋葉まゆ美	実務	○ (歯科衛生士)
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 保健生態学 (医歯薬出版)		
参考書	オーラルヘルスケア事典 (学健書院)		
一般目標	健康支援として、人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術・態度を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2 年生からの指導を受け、自分にあったホームケアを身につける 2. 歯科保健指導の概念を説明する 3. 保健行動の概念を述べる 4. 口腔の器質的・機能的な特徴を述べる 5. 各自の口腔内を観察し、説明する 6. 各種ブラッシング法の説明をする 7. 各種歯ブラシの特徴と適応症を理解する 8. 口腔清掃補助用具の種類と用途を理解する 9. 各種補助的清掃用具の使用法を説明する 10. 自身の口腔内を 100%きれいにすることができる 		
学習方略	講義・実習		
成績評価方法	小試験・定期試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1 2	1・2 年相互間実習	1・2 年相互間実習 (模擬患者) アセスメント 1 回目	
3 4	1・2 年相互間実習	1・2 年相互間実習 全体実施 1 回目	結城
5 6	1・2 年相互間実習	1・2 年相互間実習 全体実施 2 回目	結城
7 8	1・2 年相互間実習	1・2 年相互間実習 全体実施 3 回目	結城
9 10	1・2 年相互間実習	1・2 年相互間実習 全体実施 4 回目	結城

回	授業項目	学習内容	担当者
1	オリエンテーション 総論	オリエンテーション 歯科保健指導の目的・定義・法的位置づけ	結城
2	総論	健康の概念 予防の概念	結城
3	歯科保健指導の 基礎知識	保健行動支援のための基礎知識 行動変容理論	結城
4	歯科衛生過程	歯科衛生過程の概要 口腔内の情報収集（アセスメント）	結城
5	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	口腔清掃用具の種類と選択①	結城
6	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	口腔清掃用具の種類と選択②	結城
7	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	化学的清掃剤の種類と選択	結城
8	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	口腔清掃法（毛先を使った方法）	平井
9	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	口腔清掃法（毛先・わき腹を使った方法）	平井
10	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	口腔清掃法（歯ブラシ以外の清掃方法）	結城
11	歯科衛生介入としての 歯科保健指導	口腔清掃指導（矯正装置装着者・補綴物装着者への指導・義 歯の清掃と保存管理）	結城
12	分析のための データ	口腔清掃の評価①（インデックス）	結城
13	分析のための データ	口腔清掃の評価②（インデックス）	結城
14	口腔清掃実習	自分の口腔内の染め出し・記録・問題点の抽出	結城
15	実技試験①	実技試験①（ブラッシング法）	結城
16	実技試験②	実技試験②（フロッシング）	結城

授業科目	栄養指導	分野	専門分野
時期	1学年 通年(前期)	単位数	1単位(30時間)
担当者	久松タキ	実務	
教科書	歯科衛生士学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 (医歯薬出版) 日本食品成分表 2023 八訂(医歯薬出版編)		
参考書	現在のところ無し・不足資料はプリントで対応予定		
一般目標	食品に含まれる栄養素の働きを理解し、食物摂取をとおして生命の現象が営まれ、健康の保持・増進に繋がることを認識する。その上にたつて栄養指導の必要性を位置づける。		
到達目標	1. 1つ1つの栄養素の働きや含有食品について正確に説明できること。 2. 対象者の食生活を適切に把握し、QOLの向上を目指した指導が出来るようになること。 3. 対象者に自分の意見を押しつけないよう配慮するとともに、相手の目線に立った指導を工夫すること。		
学習方略	講義及び自分の食事チェック・エネルギーの実際の計算		
成績評価方法	基本的には期末テスト・課題提出プリントによる		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	栄養と栄養素	①栄養と栄養素の違いを正しく理解する ②健康と栄養について理解する	久松
2	糖質について	①糖質の種類(単糖類等)	久松
3	糖質について	①糖質の生理機能 ②食生活上の問題点	久松
4	たんぱく質について	①たんぱく質の種類 ②アミノ酸の種類	久松
5	たんぱく質について	①たんぱく質の評価法 ②たんぱく質の生理機能③含有食品	久松
6	脂質について	①脂質の種類 ②飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸	久松
7	脂質について	①コレステロール ②生理機能 ③含有食品 ④食生活上の問題点	久松
8	ミネラルについて	①種類と生理機能 ②カルシウム、リン、鉄、マグネシウム機能と食品	久松
9	ミネラルについて	①種類と生理機能 ②ナトリウム、カリウム、ヨウ素、銅	久松
10	ビタミンについて	①種類と生理機能 ②過剰症と欠乏症	久松
11	ビタミンについて	①脂溶性ビタミンの種類と特徴 ②水溶性ビタミンの種類と特徴 A・D・E・K・B1・B2・C・B6・B12・ナイアシン・葉酸	久松
12	消化吸収・食物繊維	①栄養素の消化課程と吸収 ②水の生理機能と出納 ③食物繊維の働き	久松
13	日本人の食事摂取基準	①食事摂取基準の意義 ②基礎代謝	久松
14	日本人の食事摂取基準	①身体活動レベル ②自分のエネルギーを計算してみる	久松
15	食生活と栄養	日本人の食生活状況と問題点	久松

授業科目	歯科診療補助論 I	分野	専門分野
時期	1 学年 通年 (前期)	単位数	2 単位 (60 時間)
担当者	半田 茜・舟橋良子・吉田由希子 結城 泉・大場智美・吉田ちづる 平井愛梨・秋葉まゆ美	実務	○ (歯科衛生士)
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 (医歯薬出版) 器材準備マニュアル (口腔保健協会) デンタルスタッフのための歯科保険診療ハンドブック 2023 年度版 (全国保団連)		
参考書	歯科医療における感染予防対策マニュアル&研修テキスト (医歯薬出版) 歯科衛生士のための看護学大意第 4 版 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第 2 版 (医歯薬出版)		
一般目標	専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術及び態度を習得する。		
到達目標	1. 歯科診療補助の意義と法的責任について説明できる 2. 歯科診療室における歯科衛生士の役割を理解し、適切な対応について考察することができる 3. 医療人としての自己管理について考察し行動できる 4. 歯科衛生士が行うべき診療室の薬品・材料の管理について説明できる 5. 医療従事者の望ましい身だしなみについて理解し実践できる 6. 歯科用ユニット各部の名称を述べるができる 7. 歯科科用ユニットの機能・操作方法を説明できる 8. 共同動作の基本について説明できる 9. バイタルサイン測定を実施することができる 10. ラバーダム防湿法について説明できる 11. アルジネート印象材の取り扱いについて説明できる 12. 歯科用石膏の取り扱いについて説明できる		
学習方略	講義・演習・実習		
成績評価方法	定期試験・実技試験・提出物		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	歯科診療補助総論	相互実習・歯科健康診断 実習室・実験室見学・清潔手洗い	半田
2	歯科診療補助総論	歯科診療補助の概念 診療の補助とは	舟橋
3	歯科診療補助総論 (ニッシンセミナー)	実習用器具器材の理解① シンプルマネキンの使い方 顎模型の組み立て	半田
4	歯科診療補助総論	医療人としての身だしなみ 白衣着用	半田
5	歯科診療補助総論 実習	医療安全 歯科用ユニットの操作 歯科用ユニット始業時終了時点検	半田
6	歯科診療補助総論 実習	医療法と医療安全対策 歯科用ユニットの操作と取り扱い方法 歯科用ユニット始業時終了時点検	半田

7	歯科診療補助総論 実習	実習用器具器材の理解② 歯科診療室の基礎知識	半田
8	歯科診療補助総論 実習	共同動作①② 概念とポジショニング バキューム・スリーウェイシリンジテクニック	半田
9	歯科診療補助総論 実習	歯科診療所における受診の流れ 保険証と問診票の記入	半田
10	歯科診療補助総論 実習	医療人としての自己管理① バイタルサイン測定	吉田 _由
11	歯科診療補助総論 実習	医療人としての自己管理② バイタルサイン測定 実技試験事前練習	吉田 _由
12	歯科診療補助総論 実習	実技試験	吉田 _由 半田
13	歯科診療補助総論 実習		
14	歯科診療補助総論 実習	歯科領域に必要な臨床検査 薬品・歯科材料の管理	吉田 _由
15	歯科診療補助総論 実習	まとめ	半田

授業科目	感染予防学	分野	専門分野
時期	1学年 前期	単位数	1単位 (30時間)
担当者	玉澤佳純 ¹⁾ ・半田 茜 ²⁾ 舟橋良子 ²⁾ ・吉田由希子 ²⁾	実務	¹⁾ ○ (歯科医師) ²⁾ ○ (歯科衛生士)
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 (医歯薬出版)		
参考書	歯科医療における 感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄 (医歯薬出版) ユニバーサルプレコーション実践マニュアル 新しい感染予防対策 (南江堂)		
一般目標	医療安全と感染予防について必要な基礎的知識、技術および態度を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医療における感染症と感染予防対策について説明できる 2. スタンダードプレコーションができる 3. 医療廃棄物の取り扱いができる 4. 洗浄・消毒・滅菌の定義および消毒法と各種滅菌器具を理解し、取り扱い方法を説明できる 5. 偶発事故に適切な対応ができる 		
学習方略	講義 (プリント・スライド・板書)、演習		
成績評価方法	期末試験・出席状況・授業態度・実技試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	医療安全	医療安全の概念とその対策	玉澤
2	感染予防	歯科医療における感染症の概念	玉澤
3	手指衛生	手指消毒、グローブ、マスク着脱実習	半田
4	スタンダードプレコーション	診療室における感染予防策①	半田
5	スタンダードプレコーション	診療室における感染予防策②	半田
6	滅菌と消毒	滅菌・消毒・洗浄の定義 (滅菌法)	玉澤
7	滅菌と消毒	滅菌・消毒・洗浄の定義 (消毒法・洗浄法)	玉澤
8	滅菌と消毒	歯科用器材の滅菌・消毒・洗浄実習	吉田 _由
9	滅菌と消毒	歯科用器材の滅菌・消毒・洗浄実習	吉田 _由
10	医療廃棄物の取扱	分類・分別・処理	玉澤
11	偶発事故	偶発事故や緊急時の対応	玉澤
12	感染事故	感染事故時の判断と対応	玉澤
13	インシデント アクシデント報告	インシデント・アクシデントレポートの書き方	舟橋
14	救命救急講習	山形市消防署	外部 講師
15			

授業科目	臨床実習・臨地実習 I	分野	専門分野
時期	1 学年 通年	単位数	1 単位 (45 時間)
担当者	臨床実習施設長・歯科衛生士	実務	○ (歯科医師・歯科衛生士)
教科書	なし		
参考書	なし		
一般目標	臨床現場を参観することにより、医療人としての人間性や倫理観、コミュニケーション能力を習得するために、現場における歯科衛生士の役割を理解し、実習生としての基本的な態度を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習生としての身だしなみ、姿勢、言葉遣いを身に付けて行動する。 2. 自己の体調管理を行う。 3. 患者及び歯科医院の守秘義務を遵守する。 4. 公私の区別、実習上ルールを守って実習する。 5. 患者を尊重し、受容的・共感的態度で接する。 6. 患者やスタッフに対して感謝と敬意を表す。 7. 患者やスタッフとコミュニケーションを図り、チーム医療を理解する。 8. 実習に積極的に取り組み、疑問等は自ら調べ質問する。 9. 実習に対しての報告・連絡・相談をする。 10. レポート等の提出期限を守る。 		
学習方略	臨床見学実習		
成績評価方法	評価表・レポート		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨床見学実習	1. 一般歯科診療所における歯科医療現場を参観する。	指導 歯科医師
2		2. 歯科医療従事者の役割を理解する。	
3		<ol style="list-style-type: none"> ① 歯科衛生士の業務の理解 ② 歯科医師その他スタッフの業務の理解 	指導 歯科 衛生士
4		<ol style="list-style-type: none"> 3. 診療所の構造と安全管理を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 診療用ユニットの基本構造および診療室のレイアウトが説明できる。 ② 感染予防のための基本的手技（手洗い、グローブ着脱、感染性廃棄物の取り扱い等）を実践できる。 ③ 患者受付から診療後までの一連の流れを理解する。 ④ 診療器具の名称、用途を理解する。 ⑤ 院内清掃、器具の後片付けや滅菌ができる 4. 患者応対に必要な基本的態度を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> ① 挨拶や返事ができる ② 患者やスタッフとコミュニケーションを図る 	

授業科目	臨地・臨床実習学習法 I	分野	専門分野
時期	1 学年 通年 (前期)	単位数	1 単位 (30 時間)
担当者	大場智美・結城泉・舟橋良子・半田茜 吉田ちづる・平井愛梨・秋葉まゆ美	実務	○ (歯科衛生士)
教科書	臨床見学実習帳		
参考書	臨床実習 HAND BOOK クインテッセンス社		
一般目標	臨床見学実習を円滑に行うために、臨床実習・臨地実習前後に、必要な知識・技術・態度を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床実習に出るにふさわしい身だしなみ、言葉遣いができる。 2. 歯科衛生士の仕事の内容を理解する。 3. 診療の一連の流れを理解する。 4. 歯科診療で使用する基本的な器具の名称と用途を理解する。 		
学習方略	講義・実習		
成績評価方法	実習評価表・レポート・実習態度		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨床見学実習 事前学習	実習生としての心構え 目的、身嗜み、実習記録の記入方法 挨拶・ことば・コミュニケーション 実習施設への電話連絡	大場
2	臨床見学実習 事前学習	臨床実習事前学習 診療の流れ (齶蝕・保存・補綴・外科) 器具器材の名称と用途 患者誘導、診療記録作成	大場
3	臨床見学実習 事前学習	臨床実習事前学習 受付対応	大場
4	臨床見学実習 事後学習	臨床実習事後学習 振り返り	大場
5	臨床見学実習 事後学習	臨床実習事後学習 振り返り	大場

授業科目	保健体育	分野	選択必修分野
時期	1学年 前期	単位数	2単位 (30時間)
担当者	阿部弘生・鈴木芳子 ¹⁾ ・松田喜恵 ¹⁾	実務	¹⁾ ○ (担当分野協会師範)
教科書			
参考書	授業時に必要な資料を配布する。		
一般目標	心身の健康について学ぶとともに、様々なスポーツ種目を通じてルールや運動特性、ゲームの運営方法について理解を深め、生涯スポーツの基礎となる知識、技術、体力の獲得を目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身の健康について理解し自らの健康の保持増進に関連づける事が出来る。 2. ルールと運動特性を理解して各種目に参加し、それぞれのゲームの運営を行うことが出来る。 3. 周囲と積極的にコミュニケーションを図り、自発的に運動に取り組むことが出来る。 		
学習方略	講義・実技		
成績評価方法	各種ゲームの得点と、出席状況および意欲・態度から総合的に評価する。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	ガイダンス・卓球(1)	授業内容の概略・卓球のルールと運動特性	阿部
2	卓球(2)	卓球 (ゲーム運営)	阿部
3	バドミントン(1)	バドミンントンのルールと運動特性	阿部
4	バドミントン(2)	バドミントン (ゲーム運営・シングルス)	阿部
5	バドミントン(3)	バドミントン (ゲーム運営・ダブルス)	阿部
6	ミニテニス	ミニテニス (ゲーム運営)	阿部
7	インディアカ	インディアカのルールと運動特性	阿部
8	ソフトバレーボール(1)	ソフトバレーボールのルールと運動特性	阿部
9	ソフトバレーボール(2)	ソフトバレーボール (ゲーム運営)	阿部
10	ソフトバレーボール(3)	ソフトバレーボール (ルールの工夫とゲーム運営)	阿部
11	フラフープ	フラフープの運動特性	阿部
12	ドッジボール	様々な種類のドッジボールにおける運動特性	阿部
13	花笠踊り(1)		鈴木
14	花笠踊り(2)		鈴木
15	花笠踊り(3)		鈴木

授業科目	社会学	分野	基礎分野
時期	1 学年 後期	単位数	2 単位 (30 時間)
担当者	高野昌二	実務	
教科書	なし		
参考書	必要に応じ授業項目に応じた教材、補助資料作成		
一般目標	豊かな人間性を身につけ、社会人としての会話、交流ができる		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 将来、医療従事者として医療スタッフや患者さんと豊かなコミュニケーションがとれる。 2. 二十四節気に関する基本的事項の理解の上に立って、社会人として明るく豊かな挨拶、会話ができるようになる。 3. 各世代の生育環境、社会環境に関する基本的事項の理解の上に立って、医療従事者として共感的な挨拶、会話ができるようになる。 4. 山形の風土、地域性を多面的に把握し、自己との係わりについて関心を持ち、地域に対しての関心を持てるようになる。 5. 現代社会の課題について興味と関心を持ち、理解を深めようとする。 		
学習方略	講義 発表 (スピーチ) DVD		
成績評価方法	定期試験 発表 出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	挨拶の意味①	動物と人間のコミュニケーション	高野
2	挨拶の意味②	人間と人間のコミュニケーション	高野
3	時候の挨拶①	日本の気候風土と二十四節気について	高野
4	時候の挨拶②	二十四節気(1) 立夏～大暑に関わる歳時記	高野
5	時候の挨拶③	二十四節気(2) 立秋～大雪に関わる歳時記	高野
6	時候の挨拶④	二十四節気(3) 冬至～穀雨に関わる歳時記	高野
7	歯に関する近代化	お歯黒、虫歯治療と歯の衛生週間に関する歴史	高野
8	現代社会の特質①	江戸以降の日本の人口推移から考える現代社会の特質	高野
9	現代社会の特質②	明治以降の教科書の変遷から考える現代社会の特質	高野
10	現代社会の特質③	明治以降の教育制度の変遷から考える現代社会の特質	高野
11	現代社会の特質④	明治以降の婚姻・離婚から考える現代社会の特質	高野
12	現代社会の特質⑤	大正以降の産業構造の変遷から考える現代社会の特質	高野
13	現代社会の特質⑥	平成の社会と現代社会の特質と課題	高野
14	山形の宝物①	山形の国宝と宝物 長瀨想画 草木塔 公益の碑	高野
15	山形の宝物②	日本遺産「出羽三山」と石塔群 端山信仰 民間信仰	高野

授業科目	情報科学	分野	基礎分野
時期	1学年 後期	単位数	2単位 (30時間)
担当者	田島靖久	実務	
教科書	なし		
参考書	なし		
一般目標	情報機器の仕組みや操作を理解・修得し、高度情報社会で生活するために必要な情報リテラシー、情報モラルを身につける。		
到達目標	1. ネットワークやコンピュータなどの情報機器の仕組みが説明できる。 2. 情報機器を有効に利用できるようになる。 3. インターネット上でのコミュニケーション手法を身につけ、実社会との相違点を理解し、ネットワーク上で発生する様々な問題に対して適切な対応ができるようになる。		
学習方略	講義と実習による学習		
成績評価方法	定期試験と実習時のレポートで評価する。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	インターネット	インターネットとは インターネットの仕組み	田島
2	情報機器とインターネット	コンピュータの仕組み 情報機器の安全な利用	田島
3	電子メール	電子メールの仕組み ビジネスメールのマナー	田島
4	ネットサービス	ネットサービス利用のマナーとルール 著作権	田島
5	個人情報とメディア・リテラシー	個人情報と個人情報保護法 グラフによる印象操作	田島
6	PCの基本操作	Windowsの基本操作 文章の入力	田島
7	Excelの基本操作	数式と関数 相対・絶対参照	田島
8	Excelでのグラフ作成	棒グラフの作成 円グラフの作成	田島
9	Excelでの統計処理	ヒストグラムの作成 データの並び替えとフィルター	田島
10	Excelによる検定	検定とは カイ二乗検定と平均値の検定	田島
11	Wordの基本操作	ページ設定 文字装飾	田島
12	Wordでの文書整形	段落設定 (インデント・箇条書き) 図と表の挿入と設定	田島
13	PowerPointの基本操作	テーマ設定 箇条書きと図・グラフ・表の作成	田島
14	PowerPointによる発表	SmartArt・アニメーションの利用 スライド作成の注意点	田島
15	情報の利活用	メディアからの情報の利活用 これまでの講義の振り返り	田島

授業科目	心理学	分野	基礎分野
時期	1学年 後期	単位数	2単位 (30時間)
担当者	伊藤朋子	実務	
教科書	歯科衛生学シリーズ 心理学 (医歯薬出版)		
参考書	授業中に適宜紹介		
一般目標	一般的な心理学の基礎知識を身につけ、自分や相手に対する理解を深める。		
到達目標	1. 心理学の各項目で扱う内容について説明ができる。 2. 各項目で扱う内容を身の回りの出来事に結びつけながら理解できる。		
学習方略	講義、演習、グループワーク		
成績評価方法	期末試験による評価		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	オリエンテーション	心理学の扱う内容について知る	伊藤
2	パーソナリティ①	その人らしさについて学ぶ	伊藤
3	パーソナリティ②	その人らしさについて学ぶ	伊藤
4	発達①	発達過程と各発達段階での課題について学ぶ	伊藤
5	発達②	発達過程と各発達段階での課題について学ぶ	伊藤
6	知覚	知覚の成立やその影響について学ぶ	伊藤
7	知能	知能に関する理論や思考について学ぶ	伊藤
8	学習・記憶	学習や記憶の仕組みについて学ぶ	伊藤
9	思考・動機づけ	動機づけのメカニズムや種類について学ぶ	伊藤
10	感情	感情のメカニズムや種類について学ぶ	伊藤
11	対人心理	対人関係について学ぶ	伊藤
12	集団心理	集団心理について学ぶ	伊藤
13	コミュニケーション	より良いコミュニケーションの方法について学ぶ	伊藤
14	メンタルヘルス	心の健康について学ぶ	伊藤
15	カウンセリング	カウンセリングについて学ぶ	伊藤

授業科目	生化学	分野	専門基礎分野
時期	1 学年 後期	単位数	2 単位 (30 時間)
担当者	斧 秀勇	実務	
教科書	歯科衛生士学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 (医歯薬出版)		
参考書	わかりやすい生化学 ヌーヴェルヒロカワ		
一般目標	歯科衛生士として必要な基本的な生化学の知識を習得する。		
到達目標	1. どのようにして、三大栄養素が代謝分解され、生命維持に必要なエネルギーに変換されるか説明できる。 2. 生体に必要なものが三大栄養素を利用して、どのように生合成されるか説明できる。 3. 歯科衛生士として必要な歯と口腔内の生化学について説明できる。		
学習方略	おもにプリントとパワーポイントによる講義を行うので、講義後、復習すること。		
成績評価方法	試験を行い、100 点満点で 60 点以上を合格とする。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	タンパク質	アミノ酸の化学、タンパク質の高次構造	斧
2	酵素	酵素の特性、基質、補酵素	斧
3	糖質	糖質の化学、糖質の代謝	斧
4	脂質	脂質の化学、脂質の代謝	斧
5	タンパク質代謝	アミノ酸の代謝、尿素回路、糖新生	斧
6	遺伝子 1	DNA と RNA、DNA からタンパク質へ	斧
7	遺伝子 2	遺伝病、遺伝子操作と遺伝子工学	斧
8	体液	水、無機質と微量成分、緩衝作用	斧
9	ホルモン	作用機序、ホルモンの種類	斧
10	結合組織	繊維状タンパク質、プロテオグリカン	斧
11	歯の構成成分	ヒドロキシアパタイト、歯のタンパク質	斧
12	石灰化	石灰化のしくみとその調節、脱灰	斧
13	唾液	唾液の化学組成、唾液の役割	斧
14	歯の堆積物	獲得ペリクル、プラーク、歯石、齲蝕	斧
15	歯周疾患の免疫	自然免疫と獲得免疫、内毒素としてのリポ多糖	斧

授業科目	微生物学・口腔微生物学	分野	専門基礎分野
時期	1 学年 後期	単位数	2 単位 (30 時間)
担当者	早坂暢洋	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 (医歯薬出版)		
参考書	必要に応じ文献等配布		
一般目標	微生物の種類と性状を理解させ、「感染症」と「免疫」という重要な 2 本の柱を、全身の中の口腔という観点を含め学習させる。		
到達目標	国家試験に合格することを最大目標とし、出題傾向を検討し、効果的な学習をさせる。特に「細菌」よりも「ウイルス」「真菌」「免疫」の出題傾向が多くなりつつあり、先端医学の情報や、現在注視されている感染症のトピックスも取り入れながら時代に遅れない知識を習得させる。		
学習方略	国試の出題は教科書主体である為これを使用		
成績評価方法	定期試験にて判定		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	1 章	疾病と微生物	早坂
2	2 章	微生物の病原性	早坂
3	2 章	微生物の病原性	早坂
4	2 章	微生物の病原性	早坂
5	2 章	微生物の病原性	早坂
6	3 章	宿主防御機構と免疫	早坂
7	3 章	宿主防御機構と免疫	早坂
8	3 章	宿主防御機構と免疫	早坂
9	4 章	口腔微生物	早坂
10	5 章	口腔感染症	早坂
11	5 章	口腔感染症	早坂
12	5 章	口腔感染症	早坂
13	6 章	化学療法	早坂
14	7, 8 章	院内感染対策と滅菌・消毒 細菌培養・顕微鏡	早坂
15		試験の傾向と対策	早坂

授業科目	薬理学・歯科薬理学	分野	専門基礎分野
時期	1 学年 後期	単位数	2 単位 (30 時間)
担当者	豊口 禎子	実務	○ (薬剤師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進 3 薬理学 (医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	口腔の治療、および健康保持のために使用される医薬品を理解する基礎知識を学ぶ。		
到達目標	1. 医薬品の作用を理解し、有効性及び有害作用を観察する能力を養う。 2. 服用薬を検討し、有害作用および薬物相互作用に留意する能力を養う。 3. チーム医療を担う素養を身につける。		
学習方略	講義および演習		
成績評価方法	期末試験の結果・学習態度に基づき個々の理解度を評価する。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	総論Ⅰ 薬物の種類・動態	薬物の種類、薬物動態	豊口
2	総論Ⅱ 薬物の作用・影響因子 薬物相互作用	薬物の作用・影響因子、薬物相互作用	豊口
3	総論Ⅲ 薬物の副作用 取り扱い・法律	薬物の副作用、取り扱い・法律	豊口
4	抗感染症薬	感染症に使用する薬物	豊口
5	炎症と薬、免疫と薬	炎症・免疫に作用する薬物	豊口
6	末梢神経系薬	末梢神経系に作用する薬物	豊口
7	中枢神経系薬	中枢神経系に作用する薬物	豊口
8	循環器系薬、腎臓と薬	循環器系・腎臓に作用する薬物	豊口
9	消化器系・呼吸器系薬	消化器・呼吸器に作用する薬物	豊口
10	血液に作用する薬物	血液に作用する薬物	豊口
11	代謝性疾患治療薬	代謝性疾患治療薬	豊口
12	悪性腫瘍・痛みと薬	抗悪性腫瘍薬、痛みと薬物	豊口
13	局所麻酔薬 ビタミン・ホルモン	局所の痛みを抑制する薬物 ビタミン・ホルモン	豊口
14	消毒薬、漢方薬	消毒に使用する薬物、漢方薬	豊口
15	う蝕予防・歯内療法薬	フッ化物の応用・歯内療法薬	豊口
16	歯周疾患薬 顎・口腔粘膜薬	歯周疾患に用いる薬物 顎・口腔粘膜疾患に用いる薬物	豊口

授業科目	衛生学・公衆衛生学	分野	専門基礎分野
時期	1 学年 後期	単位数	2 単位 (30 時間)
担当者	長沼由泰	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学(医歯薬出版)		
参考書	公衆衛生がみえる		
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人と集団の健康に影響を及ぼす環境要因を理解する。 ・ 人々の暮らしの中で、公衆衛生について理解する。 		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の概念・定義を知る。 2. 予防の段階に応じた政策・手段を理解する。 3. グローバルな面から、新公衆衛生運動について知る。 4. 口腔疾患が社会経済的因子、社会環境に左右されていることを理解する。 		
学習方略	スライドを用いた講義		
成績評価方法	定期試験(本試験は範囲を分けて 2 回実施。再試験は 1 回のみで全範囲) 本試験は選択式問題と記述問題。再試験は記述問題のみ。		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	総論	歯科衛生士の業務と衛生・公衆衛生 健康の概念と WHO 憲章 新公衆衛生運動 プライマリーヘルスケア ヘルスプロモーション 生涯を通じた健康づくりと保健事業	長沼
2	疫学	疫学とは 人間集団の健康と疾病・異常 疫学に関する基本的用語の説明と各値の算出	長沼
3	人口	人口統計 少子化と超高齢化 日本人の平均寿命と三大死因	長沼
4	感染症	感染と発病 感染の三大要因 感染症と感染予防	長沼
5	地域保健	コミュニティヘルスケアの基礎 健康教育、健康相談、健康診査、 健康調査 地域保健活動の進め方 健康日本 21 と歯の健康 地域保健法と健康増進法 市町村保健センターの役割	長沼
6	母子保健	母子保健法 母子健康手帳と母子保健管理・基盤整備 ハイリスク妊娠の管理 1 歳 6 か月・3 歳児健康診査	長沼
7	前半内容復習	1-6 回目内容の総まとめ	長沼
8	中間試験	1-6 回範囲に関する試験	長沼
9	学校保健	保健教育と保健管理 学校保健委員会 学校歯科保健 児童・生徒・職員の健康増進	長沼

10	成人・ 老人保健	生活習慣病 市町村等の医療保険者による事業と健康増進法に基づく事業 老人保健事業と歯科衛生士の役割 介護予防サービスと口腔機能の向上	長沼
11	産業保健	労働者を職業性疾病から守り、健康の保持 職業性疾病の発生要因とその対策、 三管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）	長沼
12	精神保健	欲求阻止と葛藤 精神保健対策 精神あるいは心の健康 ライフサイクルと精神保健上の問題点	長沼
13	環境と健康	生活環境と健康 廃棄物処理 公害防止・環境保全・地球環境と健康	長沼
14	食品と健康	食中毒とその予防 食品添加物 栄養に関する施策	長沼
15	後半内容復習	9-14 回目の内容復習	長沼

授業科目	歯科医療倫理	分野	専門分野
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位 (15 時間)
担当者	齋藤憲生	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学 (医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	自然と人間の正しい調和の自覚を求め、社会人としての倫理感を醸成し、医療人の職業倫理を培い、医の倫理と生命倫理の歴史的経過と諸問題や医の倫理に関する規範にも真摯に対応する。		
到達目標	生命の尊さを認識し、人の誕生から死までの間に起こりうる様々な問題を通して医療における倫理の重要性を学ぶ。医療現場における具体的課題を学び、個人による倫理観の多様性とその差異を理解する。		
学習方略	教科書を中心に、音読し、解説する		
成績評価方法	出席・レポート採点		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	総論	医の倫理、医師中心の医療から患者中心	齋藤
2	心構え	医療従事者としての心構え	齋藤
3	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの実際	齋藤
4	Q.O.L.	Quality of life について	齋藤
5	行動科学	医療現場における人の行動特性	齋藤
6	チームアプローチ	チームアプローチの意義と必要性	齋藤
7	コミュニケーション	医療現場におけるコミュニケーション	齋藤
8	演習	このような時、歯科衛生士はどう対処するか	齋藤

授業科目	保存修復学	分野	専門分野
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位 (15 時間)
担当者	石川 隆	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 (医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	歯科衛生士は歯科医師の治療における手助けばかりでなく、疾患の内容、症状、処置手順を充分理解して患者に接する事が出来るよう		
到達目標	保存修復学は、う蝕などで生じた歯の部分的欠損を修復/治療して形態と機能を回復させ、疾患の進行を阻止し、予防する事によって口腔の健康を保つ事である。この治療のほとんどに歯科衛生士が携わる事から、治療の概念および歯科衛生士としての使命を充分理解する		
学習方略	教科書を中心に、音読し、解説する		
成績評価方法	授業時間中の小テストを参考に、期末試験(筆記)と出席状況、授業態度を加味して総合的に評価する		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	歯の保存療法	歯の硬組織、口腔診査	石川
2	保存修復の概要	硬組織疾患	石川
3	保存修復治療	治療の準備、窩洞	石川
4	直接法修復	コンポジットレジン、セメント	石川
5	間接的修復	メタルインレー、	石川
6	間接的修復	アンレー、ラミネートベニア	石川
7	歯科衛生士の役割	検査診断時	石川
8	保存修復補助	保存修復時、器材薬剤の管理	石川

授業科目	歯内療法学 I	分野	専門分野
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位 (15 時間)
担当者	有泉 実	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生士学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 (医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	学習者が歯内療法学の基本概念を学ぶとともに歯科医学における歯内療法学の必要性、重要性を理解することを目標とする。		
到達目標	学習者が一般目標を達成したうえで、歯内療法に必要な技能、スタッフ・患者と十分コミュニケーションできる能力を修得し、実際の臨床に対応できるようになることを目標とする。		
学習方略	講義形式		
成績評価方法	試験の結果及び出欠状況、学習態度等にて評価		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	1 章	歯内療法の概要	有泉
2	1 章	歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類と症状	有泉
3	1 章	歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の処置	有泉
4	2 章	歯髄保存療法	有泉
5	3 章	歯髄の除去療法	有泉
6	3 章	歯髄の除去療法	有泉
7	4 章	根管治療	有泉
8	4 章	根管充填	有泉

授業科目	歯周病学 I	分野	専門分野
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位 (15 時間)
担当者	両角祐子・丸山昂介	実務	○ (歯科医師)
教科書	歯科衛生士学シリーズ 歯周病学 (医歯薬出版)		
参考書	歯周病学用語集 第3版(医歯薬出版)		
一般目標	歯周病学を理解するために歯周組織についての知識を深め、さらに歯周病の病因、病態、検査法、診断について必要とされる基礎知識を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歯周組織の構造と機能を説明する。 2. 歯周病の発症と進行について説明する。 3. 歯肉炎と歯周炎、さらに特殊な歯周疾患の病因と病態を説明する。 4. 歯周病の検査法と診断を説明する。 5. 歯周治療の進め方を説明する。 		
学習方略	講義		
成績評価方法	客観試験、記述試験、出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	歯周病の現状 歯周組織	歯周治療とは 正常な歯周組織の構造と機能	両角
2	歯周病の分類(1)	歯肉病変	両角
3	歯周病の分類(2)	歯周炎	丸山
4	歯周病の分類(3)	壊死性歯周病、歯周膿瘍、歯周-歯内病変、歯肉退縮、 咬合性外傷	丸山
5	歯周病の原因(1)	細菌因子、宿主因子	両角
6	歯周病の原因(2)	環境因子 ペリオドンタルメディシン	両角
7	歯周治療の進め方 歯周病の検査(1)	歯周病の診断と治療計画の立案 歯周病の各種検査	丸山
8	歯周病の検査(2)	咬合の検査、画像診断 歯周病の疫学的評価に用いる各種指数	丸山

授業科目	歯科予防処置論Ⅰ（歯周病予防処置）	分野	専門分野
時期	1学年 通年（後期）	単位数	3単位（90時間）
担当者	秋葉まゆ美・大場智美・吉田ちづる・結城泉 舟橋良子・半田茜・平井愛梨	実務	○（歯科衛生士）
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯周病学(医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 保健生態学(医歯薬出版)		
参考書			
一般目標	生涯を通じた人々の歯・口腔の健康に関する管理方法を身につけるため、専門的な知識、技術、態度を身につける。		
到達目標	1. 口腔内で衛生管理と安全に配慮した器具操作を行うことができる 2. 口腔内でのシクルスケーラー・Gキュレットの操作ができる 3. 各種手用器具を口腔内で正しく把持し操作できる 4. 正確に口腔内の情報を収集できる 5. 患者に対し術前・術後の説明ができる 6. 医療連携に必要なコミュニケーションをはかることができる 7. シャープニングの基礎知識を理解できる 8. シャープニングを実施できる		
学習方略	講義・演習・実習・実技試験		
成績評価方法	定期試験・実技試験・実技評価・授業態度・提出物		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	口腔内の情報収集	問診・歯・口腔・歯肉の診査・歯の動揺度 後期の予定について	秋葉
2	シャープニング	シャープニング基礎実習① シクルスケーラー	秋葉
3	シャープニング	シャープニング基礎実習② Gキュレット	秋葉
4	口腔内の情報収集	問診・口腔内診査相互実習 相互間実習のオリエンテーション	秋葉
5	口腔内の情報収集	問診・口腔内診査相互実習 相互間実習のオリエンテーション	秋葉
6	相互間実習	プロービング、スケーリング相互間実習 1回目 $\frac{3}{3}$	秋葉
7	相互間実習	プロービング、スケーリング相互間実習 1回目 $\frac{3}{3}$	秋葉
8	相互間実習	プロービング、スケーリング相互間実習 2回目 $\frac{3}{3}$	秋葉
9	相互間実習	プロービング、スケーリング相互間実習 2回目 $\frac{3}{3}$	秋葉

10	相互間実習	プロービング、スケーリング、歯面研磨 (PTC) 相互間実習 3回目 <u>7~4</u>	秋葉
11	相互間実習	プロービング、スケーリング、歯面研磨 (PTC) 相互間実習 3回目 <u>7~4</u>	秋葉
12	相互間実習	プロービング、スケーリング、歯面研磨 (PTC) 相互間実習 4回目 <u>4~7</u>	秋葉
13	相互間実習	プロービング、スケーリング、歯面研磨 (PTC) 相互間実習 4回目 <u>4~7</u>	秋葉
14	相互間実習 試験	スケーリング口頭試問	秋葉
15			
16	相互間実習	プロービング、スケーリング、歯面研磨 (PTC) 相互間実習 5回目 <u>7~4</u>	秋葉
17	相互間実習	プロービング、スケーリング、歯面研磨 (PTC) 相互間実習 5回目 <u>7~4</u>	秋葉
18	相互間実習 試験	プロービング、スケーリング、歯面研磨 (PTC) 相互間実習 6回目 <u>4~7</u> 実技評価	秋葉
19	相互間実習 試験	プロービング、スケーリング、歯面研磨 (PTC) 相互間実習 6回目 <u>4~7</u> 実技評価	秋葉
20	試験の振り返り	実技評価の振り返り	秋葉
21	試験の振り返り	実技評価の振り返り	秋葉

授業科目	歯科予防処置論Ⅰ（う蝕予防処置）	分野	専門分野
時期	1学年 通年（後期）	単位数	3単位（90時間）
担当者	大場智美・秋葉まゆ美・吉田ちづる 結城 泉・舟橋良子・半田 茜・平井愛梨	実務	○（歯科衛生士）
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1保健生態学（医歯薬出版）		
参考書			
一般目標	人々の歯・口腔の健康に関し、生涯を通じた継続的な管理方法を身につけるため、疾患やライフステージ別の予防法について目的、方法、手技を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. う蝕予防処置法を説明できる 2. う蝕予防処置法の種類を列挙できる 3. う蝕活動性試験の種類、特徴を述べることができる 4. う蝕活動性試験の実施、判定、評価を行うことができる 5. カリエスリスクに応じた予防案を作成できる 6. フッ化物の作用機序を説明できる 7. フッ化物応用の種類と方法を説明できる 8. フッ化物洗口を実施できる 9. 歯面研磨（PTC）、歯面清掃器の目的、術式、注意点を説明できる 10. 相互間で歯面研磨（PTC）、歯面清掃器を実施できる 		
学習方略	講義・演習・実習・小テスト		
成績評価方法	定期試験・小テスト・提出物・授業態度		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	PTC・歯面清掃器	歯面研磨（PTC）・歯面清掃器 基礎知識	大場
2	PTC	歯面研磨（PTC）・歯面清掃器 基礎実習	大場
3	PTC	歯面研磨（PTC）・歯面清掃器 相互間実習	大場
4	PTC	歯面研磨（PTC）・歯面清掃器 相互間実習	大場
5	う蝕予防処置基礎知識	う蝕予防処置法とは・う蝕予防処置法の種類	大場
6	う蝕予防処置基礎知識	う蝕の原因、原因菌、唾液の役割	大場
7	う蝕活動性試験の基礎	評価方法の種類と特徴	大場
8	う蝕活動性試験の基礎知識	う蝕活動性試験の種類	大場
9	う蝕活動性試験の実際	①RDテスト ②カリオスタット ③CAT21buf	大場
10	う蝕活動性試験の実際	④デントカルトSM ⑤デントカルトLB 問診事項	大場
11	カリエスリスクの評価	カリエスリスクの評価・レーダーチャートの作成・予防案作成	大場
12	フッ化物の基礎知識	フッ化物の基礎知識・作用機序	大場
13	フッ化物の基礎知識	フッ化物の安全性・応用の種類	大場
14	フッ化物洗口	フッ化物洗口の実際	大場
15	まとめ	まとめと振り返り	大場

授業科目	歯科保健指導論 I	分野	専門
時期	1 学年 通年 (後期)	単位数	2 単位 (60 時間)
担当者	結城 泉・平井愛梨・舟橋良子 大場智美・半田 茜・吉田ちづる 秋葉まゆ美	実務	○ (歯科衛生士)
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学 (医歯薬出版)		
参考書	オーラルヘルスケア事典 (学健書院) 世界最強の歯科保健指導上巻～中巻 (クインテッセンス社)		
一般目標	健康支援として、人々の歯・口腔の健康に関するセルフケア能力を高めるために必要な知識・技術・態度を習得する。		
到達目標	11. 相互間実習で口腔清掃度を示す指数を理解し算出できる 12. 対象者の口腔内の問題点を列挙できる 13. 対象者の問題点から改善方法を考察できる 14. ライフステージに応じた心身の特徴を理解できる 15. ライフステージに応じた口腔の特徴を理解できる 16. ライフステージに応じた歯科保健指導の要点を列挙できる 17. 対象者に応じた媒体と原稿の作成ができる		
学習方略	講義・実習		
成績評価方法	小試験・定期試験		
回	授業項目	学習内容	担当者
1 2	口腔清掃演習	相互間実習 (口腔内観察・記録・染め出し・問題点抽出・改善方法の考察)	平井
3	対象別の歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入 (妊産婦期)	平井
4	対象別の歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入 (乳児期)	平井
5	対象別の歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入 (幼児期)	平井
6	対象別の歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入 (学齢期)	結城
7	対象別の歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入 (青年期)	結城
8	対象別の歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入 (成人期)	結城
9	対象別の歯科衛生介入	ライフステージに対応した歯科衛生介入 (老年期)	結城
10	対象別の歯科衛生介入	配慮を要する者への歯科衛生介入 (要介護高齢者・障害児)	結城
11	対象別の歯科衛生介入	配慮を要する者への歯科衛生介入 (大規模災害被災者)	結城
12 13	口腔清掃演習	相互間実習 (口腔内観察・記録・染め出し・問題点抽出・改善方法の考察)	結城
14 15	1・2 年相互間実習に向けた媒体作成	オリエンテーション 媒体・原稿の作成・発表練習	結城
16	まとめ	後期試験対策	結城

授業科目	歯科診療補助論 I	分野	専門分野
時期	1 学年 通年 (後期)	単位数	2 単位 (60 時間)
担当者	半田 茜・舟橋良子・吉田由希子 結城 泉・大場智美・吉田ちづる 平井愛梨・秋葉まゆ美	実務	○ (歯科衛生士)
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 (医歯薬出版) 器材準備マニュアル (口腔保健協会) デンタルスタッフのための歯科保険診療ハンドブック 2023 年度版 (全国保団連)		
参考書	歯科医療における感染予防対策マニュアル&研修テキスト (医歯薬出版) 新人歯科衛生士・歯科助手ポケットマニュアル第 2 版 (医歯薬出版)		
一般目標	専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術及び態度を習得する。		
到達目標	1. 歯科診療補助の意義と法的責任について説明できる 2. 歯科診療室における歯科衛生士の役割を理解し、適切な対応について考察することができる 3. 医療人としての自己管理について考察し行動できる 4. 歯科衛生士が行うべき診療室の薬品・材料の管理について説明できる 5. 医療従事者の望ましい身だしなみについて理解し実践できる 6. 歯科用ユニット各部の名称を述べることができる 7. 歯科科用ユニットの機能・操作方法を説明できる 8. 共同動作の基本について説明できる 9. バイタルサイン測定を実施することができる 10. ラバーダム防湿法について説明できる 11. アルジネート印象材の取り扱いについて説明できる 12. 歯科用石膏の取り扱いについて説明できる 13. 規格性のある口腔内写真撮影を理解する		
学習方略	講義・演習・実習		
成績評価方法	定期試験・提出物		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	歯科診療補助総論	歯科診療補助の概念・医療安全 基礎知識の復習	半田
2	歯科診療補助総論 実習	歯科診療における基礎知識 歯科診療室の環境・共同動作 バイタルサイン測定復習	半田
3	歯科診療補助総論 実習	歯科診療における基礎知識 歯科診療所における受診の流れ 相互実習	半田
4	歯科診療補助総論 実習	歯科衛生材料の種類と用途 歯科衛生材料の作製方法 歯科衛生材料の消毒と滅菌	半田
5	歯科診療補助基礎 実習	薬品・歯科材料の管理 表面麻酔薬の体験	半田

6	歯科診療補助基礎	歯科衛生士業務記録作成方法 歯科衛生士業務記録作成の実際 周術期における歯科診療の補助	吉田 _由
7	歯科診療補助基礎 実習	歯科診療室における共同動作 ラバーダム防湿①	半田
8	歯科診療補助基礎 実習	歯科で扱う歯科材料・印象採得 各種印象材の特徴・分類について	吉田 _由
9	歯科診療補助基礎 実習	歯科で扱う歯科材料・印象採得 アルジネート印象材の練和練習	吉田 _由
10	歯科診療補助基礎 実習	歯科材料の基礎知識 石膏の取り扱い 石膏の練和・石膏注入	吉田 _由
11	歯科診療補助基礎 実習	アルジネート印象材の取り扱い 石膏の取り扱い 印象採得から石膏注入、トレーの清掃まで	吉田 _由
12	歯科診療補助基礎 実習	アルジネート印象材の取り扱い 石膏の取り扱い 印象採得から石膏注入、トレーの清掃まで	吉田 _由
13	歯科診療補助基礎 実習	口腔内写真撮影法① カメラの取り扱い	半田
14	歯科診療補助基礎 実習	口腔内写真撮影法① 模型を使用した撮影	半田
15	診療補助実習 (サンフォート)	口腔内写真撮影法② 相互間撮影 口腔内写真画像処理	半田
16			
17			
18			

授業科目	臨床検査	分野	専門
時期	1学年 後期	単位数	1単位 (30時間)
担当者	白田 亨	実務	○ (臨床検査技師)
教科書	歯科衛生学シリーズ 臨床検査 (医歯薬出版)		
参考書	なし		
一般目標	患者の全身的健康状態や全身疾患を把握するための一般臨床検査の意義と関連を理解する。		
到達目標	1. 一般臨床検査 (生理機能検査、検体検査) の種類と目的を説明できる。 2. 検査の倫理と安全性を説明できる。 3. 検査値の評価の重要性を説明できる。		
学習方略	教科書、スライドおよび配布資料による講義		
成績評価方法	定期試験 (筆記試験)		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨床検査総論 (1)	病院検査室の紹介、臨床検査の必要性、検査の倫理と安全 (1章 臨床検査と歯科衛生士の役割 ①⑥)	白田
2	臨床検査総論 (2)	臨床検査の必要性、目的、種類 (1章 臨床検査と歯科衛生士の役割 ②③)	白田
3	臨床検査総論 (3)	検査成績の読み方、基準値、変動要因 (1章 臨床検査と歯科衛生士の役割 ④⑤)	白田
4	生理機能検査	体温、脈拍、血圧、心電図、肺機能 (2章 生理機能検査)	白田
5	検体検査 採血法	採血時の注意 (患者確認、迷走神経反射、感染対策、採血管の種類など) (3章 血液学的検査①血液学的検査の基本)	白田
6	血液学的検査	赤血球、白血球 (3章 血液学的検査②赤血球の検査③白血球の検査)	白田
7	凝固・線溶系検査	血液凝固・線溶系のスクリーニング検査 (3章 血液学的検査④出血・凝固系検査)	白田
8	微生物学的検査	グラム染色、培養、薬剤感受性検査、感染症に係る血液学的検査 (4章 感染症の検査①微生物学的検査②感染症に係る血液学的検査)	白田
9	感染症の検査	主な感染症 (梅毒、肝炎ウイルス、HIV) の検査 (4章 感染症の検査③主な感染症の検査)	白田
10	肝機能の検査	肝臓の構造と機能、肝機能検査、脂質代謝 (5章 肝機能の検査)	白田
11	腎機能の検査	腎臓の構造と機能、腎臓の検査、尿検査 (6章 腎機能の検査)	白田
12	糖尿病の検査 代謝・内分泌疾患の検査	糖代謝、糖尿病の検査、金属、ビタミン、ホルモンの検査、 (7章 糖尿病の検査、8章 代謝・内分泌疾患の検査)	白田
13	免疫学的検査	免疫システム、アレルギー、輸血の検査、腫瘍マーカー (9章 免疫・血清学的検査)	白田
14	病理学的検査	細胞診、組織診断、がんゲノム医療、遺伝子パネル検査 (10章 病理学的検査)	白田
15	病態と臨床検査	検査値から病態を推測する	白田

授業科目	臨地・臨床実習学習法 I	分野	専門分野
時期	1 学年 通年(後期)	単位数	1 単位 (30 時間)
担当者	大場智美・結城泉・舟橋良子・半田茜 吉田ちづる・平井愛梨・秋葉まゆ美	実務	○ (歯科衛生士)
教科書	臨床見学実習帳		
参考書	臨床実習 HAND BOOK クインテッセンス社		
一般目標	臨床見学実習を円滑に行うために、臨床実習・臨地実習前後に、必要な知識・技術・態度を習得する。		
到達目標	1. 臨床実習に出るにふさわしい身だしなみ、言葉遣いができる。 2. 歯科衛生士の仕事の内容を理解する。 3. 診療の一連の流れを理解する。 4. 歯科診療で使用する基本的な器具の名称と用途を理解する。		
学習方略	講義・実習		
成績評価方法	実習評価表・レポート・実習態度		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	臨地実習企画	学校見学会の企画	大場
2	臨地実習企画	学校見学会の企画	大場
3	臨地実習演習	学校見学会の演習	大場
4	臨地実習演習	学校見学会の演習	大場
5	臨地実習体験	学校見学会の企画及び実施	大場
5	臨地実習体験	学校見学会の企画及び実施	大場
6	臨地実習体験	学校見学会の企画及び実施	大場
7	臨地実習体験	学校見学会の企画及び実施	大場
8	臨床見学実習の心構え	実習生としての心構え 目的、身嗜み	大場
9	臨床見学実習の心構え	臨床実習事前学習 受付対応、患者誘導、診療記録作成、挨拶、言葉、実習記録の作成、実習施設への電話連絡	大場
10	臨床見学実習振り返り	臨床見学実習の振り返り 事後試験オリエンテーション	大場
11	臨床見学実習後の評価	臨床見学実習後の評価 (知識)	大場
12	臨床見学実習後の評価	臨床見学実習後の評価 (実技①)	教務
13	臨床見学実習後の評価	臨床見学実習後の評価 (実技①)	教務
14	臨床見学実習後の評価	臨床見学実習後の評価 (実技①)	教務
15	臨床見学実習振り返り	実技試験の振り返り	大場

授業科目	ケアコミュニケーション I	分野	選択必修分野
時期	1 学年 後期	単位数	1 単位 (15 時間)
担当者	藤田素子 ¹⁾ ・舟橋良子 ²⁾ ・大場智美 ²⁾	実務	1) ○ (担当分野事業所代表) 2) ○ (歯科衛生士)
教科書	新歯科衛生士教本「受付対応事務」医歯薬出版社 「歯科スタッフのためのケア・コミュニケーション」(株) ウィネット		
参考書	「ケア・コミュニケーション」(株) ウィネット		
一般目標	将来の歯科衛生士として、信頼関係に基づく医療サービスを提供するためのコミュニケーション能力、及び社会人として多くの人と円滑な人間関係を築く能力を習得する。		
到達目標	<p>ビジネスマナー</p> <p>1. 社会人としての心構えを理解する</p> <p>2. 基本動作や言葉使いを理解し実践する</p> <p>3. 患者対応、電話対応の基本を理解する</p> <p>ケア・コミュニケーション</p> <p>1. ケアコミュニケーションの基本的な心構えを列挙する</p> <p>好感、信頼感、敬意を伝えるコミュニケーションを説明する</p>		
学習方略	講義、演習、グループ討議		
成績評価方法	定期試験、授業態度、出席状況		
回	授業項目	学習内容	担当者
1	患者との関係を築くコミュニケーション	「ケアコミュニケーション」について 学習のすすめ方 好感安心感を高めるコミュニケーション 1 相手の人生や生活に寄り添うパートナー	舟橋
2	患者との関係を築くコミュニケーション	好感安心感を高めるコミュニケーション 2 その人らしさを守る制度 コミュニケーションの基礎知識 II まとめ	大場
3	ケアコミュニケーションの基本的な心構え	「ケアコミュニケーション」について コミュニケーションの基礎知識 I 基本的な心構え	藤田
4	ビジネスマナー	社会人としての心構え、身嗜みについて 基本的なマナーについて学ぶ	藤田
5	ビジネスマナー	コミュニケーションの基礎知識 II お辞儀、あいさつの実際 話す時の心構えを理解しよう	藤田
6	ビジネスマナー	言葉遣いの基本 受付対応の実際	藤田
7	患者との関係を築くコミュニケーション	医療におけるコミュニケーションの役割 好感・信頼感を与えるコミュニケーション 敬意を伝えるコミュニケーション	藤田
8	ビジネスマナー	受付対応の演習① 受付対応の演習②	藤田